

2014年度を振り返って

2014年度は、北米およびアジアでの安定的な経済成長を背景に、機械加工品やLEDバックライトが堅調に拡大したのをはじめ、各種電子機器製品の収益改善で全事業で業績を伸ばすことができました。この結果、2015年3月期は売上高が前年同期に比べ34.8%増加し5,006億7,600万円、営業利益は86.7%増加し601億100万円、純利益は91.0%増加し398億8,700万円となり、売上高および営業利益、純利益ともそれぞれ過去最高の業績を達成することができました。これは、ミネベアグループが目指す「真摯なものづくり」を継続してきたとともに、進化させてきた結果にほかなりません。

こうした好調な事業活動の基盤を確かなものとし、さらなる成長を続けていくためには経営の基本方針である「五つの心得」を踏まえたCSRを実践していくことが欠かせません。特に、グローバル市場でビジネスを展開している企業としてさらにCSRマネジメントを強化していく必要性を感じています。2014年度は、2013年度に国内で実施したISO26000*に基づくCSRの現状分析を世界各地のグループ拠点に展開しました。それぞれの拠点を担当するCSRオフィサーと連携し、現状の把握と課題の洗い出しを実施しています。また、2012年度の軽井沢工場に引き続き、米子工場で米子市長をはじめとする地域の皆様をお招きし、ダイアログを開催しました。ステークホルダーの声に耳を傾け、弊社への要望や期待などに取り組んでまいります。

また、CSRマネジメントの強化に加え、「真摯なものづくり」を体現するには、製品の開発・生産を通しての社会貢献という視点も重要です。この方向性をあらためて全社で確認するため、「ミネベアグループのCSR実践に向けた活動方針」に、新たに「製品を通じた社会価値の創造」という項目を追加しました。

社会を支える精密部品メーカーとして「信頼性が高く、エネルギー消費を減らす製品」を積極的に開発し、広く普及させていくことで社会に新たな価値を創造してまいります。



ミネベア株式会社
代表取締役 社長執行役員

貝沼由久

新「5本の矢」戦略の推進で 次なるステージを目指す

2013年11月より、私たちは将来へ向けた社会のニーズの掘り起こしとさらなる事業拡大を目指して「5本の矢」戦略を推進してきました。このうちボールベアリングと計測機器の2つは、この2015年3月期にそれぞれの目標をほぼ達成することができました。そこで新たに新「5本の矢」戦略を策定し、中期事業計画の新たな目標としてまいります。

この新「5本の矢」戦略を実行に移すに当たっては、製品の開発・生産を通して社会に価値を提供するために、お客様に先がけて動き、いち早くニーズを掘り起こしていく姿勢と行動力が必要です。ミネベアグループは、要素技術から超精密加工技術、アッセンブリー技術に至るまで多彩で高度な技術力を有しているのが大きな強みです。こうした独自の製品開発力、製品生産力を、お客様を通して確かな社会のニーズへと結びつけていくことができれば、広範囲にわたりオンリーワンの価値を提供できると確信しています。

「Change to Grow」の姿勢で、 創立100周年の基盤づくりを確かなものに

それに加え、一つ一つの部門が独立して取り組んでいたことを結集・融合させ、「縦と横の総合力」としてシナジー効果を最大限に発揮させていくことが新たなニーズの掘り起こしと価値の創造に重要だと考えています。

例えばベアリングやモーターの分野では、自動車のダウンサイジングや省エネルギー化といったニーズがこれまで以上に高まっています。当社グループが得意とする小型で高品質な製品をつくれる技術を生かせば、こうした新しい機能や性能向上といった用途への拡大が実現できると考えています。次いで複合製品および照明器具製品の分野では、スマートライティングの提案を進めていきます。これは従来の白熱灯や蛍光灯、ハロゲン照明をLEDに置き換えるだけでなく、LEDバックライトで培った導光板の技術や無線技術と組み合わせることで光の向きや範囲、明るさの自動調節を可能にし、照明の利便性やエネルギー効率をさらに高めていく試みです。また、計測機器および航空機部品の分野では、Sartorius Mechatronics T&H GmbH(ドイツ)とその子会社の買収に加えて、特殊セラミックベアリングやハイブリッドベアリング製品の生産・販売で大きな強みを持つ CEROBEAR GmbH(ドイツ)が新たに当社グループに加わりました。こうしたM&Aとシナジー効果の最大化を図ることで、さらなるニーズの掘り起こしを加速させていくことができると考えています。

2009年4月、私がミネベアグループのトップに就任した際、創立100周年へ向けた基盤づくりを進めていくことをお約束しました。その基盤づくりの中長期的目標として、2020年までに「売上高1兆円」または「営業利益1,000億円」のどちらか早いほうの実現を目指していきます。この挑戦には、私たちのこれまでの成功や常識を捨て、発想や考え方、やり方、そして製品に至るすべてを変えていくことが不可欠です。

私はこうした想いを「Change to Grow」というキーワードに込めました。私自身が時代の変化を敏感にとらえ、迅速に社内へ展開していくことで「Change to Grow」を体現するとともに、従業員一人ひとりがこの変化と成長の必要性を実感し、社会やお客様のニーズにスピード感をもって対応してまいります。創立60周年に掲げたスローガン「Passion to Exceed Precision」の下、情熱を持ってさらなる変化と成長を目指してまいります。

本レポートでは、私たち当社グループが今取り組んでいる事業活動とCSR活動について多彩な角度から詳しくご紹介しています。お読みになってのご意見、ご感想をぜひお寄せください。

※ISO26000:社会的責任に関する国際規格。認証を目的としたものではなく、組織が効果的に社会的責任を実践するための手引。

新「5本の矢」戦略

